

会津の地場産業の再活性化に関する提言

会津若松商工会議所青年部「地域政策委員会」では、平成19年度4月に発足し、「地域の為に」何ができるか、いくつか議論を重ねて参りました。そんな中、発足2ヶ月目の定例会で会食を共にしていた折、ふと委員メンバーの目についたのが「割り箸」でした。現在、環境問題等でクローズアップされることも多い、「この『箸』に注目してみよう！」ということになり、3ヶ月目からは、世間でブームの携帯箸(マイ箸)を各委員が自主的に持ち寄り、会食の際の割り箸は使用しないようになりました。

さらに、「どうせマイ箸ならば、地元会津塗のほどこされた箸を使おうではないか！」

「郷土には、優れた地場産業である会津塗があるじゃないか。」という議論に発展。

私たちは、会津への誇りと、故郷で育つ子どもたちへ、地場産業のすばらしさを啓蒙するとともに、環境問題を考えるきっかけとして、この取組みを推進していくこと誓い合いました。

会津人は、「やってみんべ」意識の、そして民度の高いまちです。また、子供たちのお弁当の箸にしても、大人の手弁当にしても、「マイ箸」を利用していることを考えれば、それほど難しいことではないと思われまます。

まずは自らが、商工会議所青年部の全例会や委員会会議、会食には、「マイ箸」を携帯し、努めて実践していきます。さらにその家族や子どもたち・各青年部委員の事業所にも協力を呼びかけ、また、商工会議所議員の皆様をはじめ会議所会員、および事業所にもご賛同いただくことで、関係所管への協力を請い、建議してまいります。これだけでも、大きな波及効果が期待できると考えております。

今は小さい輪ではありますが、「マイ箸」運動の地域全体への広がりが、守るべき地場産業の振興へ寄与し、さらには愛すべき郷土の自然環境へも観点を向けながら、今後も委員会活動を推進して参る所存であります。

本提言書は、私たちがマイ箸を携帯することで見えてきた、会津における地場産業の在り方や、可能性についてまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。

会津若松商工会議所青年部
地域政策委員会委員長 三富 俊彦